

海人

かいと

ワカメのボイル風景 (写真提供: 宮城県漁業士会北部支部)

ごあいさつ

宮城県漁業士会 会長 小野寺 敏一

宮城県漁業士の皆様、新しい年を迎え御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本会へのご理解・ご協力へ厚く御礼申し上げます。



さて、漁業を取り巻く環境は大変厳しい状況になっております。昨年を振り返りますと、北京オリンピックを期に燃油の高騰が進み、漁業経営を圧迫する状況が長らく続きました。漁業士会会員の皆様には、魚価の低迷が続く折、このような燃油価格の高騰に対応すべく、漁業士として試行錯誤を重ねながら、各浜で御指導をいただき誠にありがとうございます。また、全国の皆様と燃油高騰危機突破全国漁民大会を東京で開催するにあたりましては、お忙しい中、足を運んでいただき感謝を申し上げます。

このような状況も、北京オリンピックが終わるとともに燃油価格が下がり始め、ほっと一安心したのもつかの間、私たち漁民にとっては、更なる心配事となる世界的な不況がすぐに発生し、現在に至っております。

これは、米国サブプライムローンを発端とした世界的な金融危機から経済状況が悪化し、それに伴い、私たち漁業生産の礎となる魚価の低迷が続いていく現在の状況を生み出しています。宮城県漁業士会としても、これからの漁業経営安定化・健全化を進めるため、様々な連携を密にしながら、この不景気を乗り越えていかなければなりません。

宮城県漁協もこのような経済の低迷を漁民のリーダー(格)として、私たち漁業士、漁協女性部、漁青連の若い浜のリーダーと連携を密にとりながら浜の活性化を図るべく指導をしていかなければ、この景気を乗り越えていくのは大変困難かと察するところでございます。漁業士一人一人の自覚とともに、これからの漁業指導に専念をお願いしたいと存じる次第でございます。

未来のある明日に向かって共に手を取り合って、頑張っていきたいと思っております。

最後になりますが、会報の発行にあたり、御指導頂いた関係機関の皆様及び寄稿・編集に協力を頂いた会員の皆様に御礼申し上げますとともに、会員皆様の安全操業を祈念し、挨拶とします。

新漁業士のご紹介

宮城県漁業士会事務局

平成二十年五月二十九日に県庁講堂において平成二十年度宮城県農業者・漁業士退任者感謝状贈呈式及び認定証交付式が開催され、新たに青年漁業士二名、指導漁業士十一名が認定されました。

当日は、八名の漁業士が出席し、知事から直接認定証と徽章が交付されました。

新漁業士を代表して指導漁業士に認定された菊地幹彦さんが「現在、漁業を取り巻く環境は、魚価安、原油の高騰など厳しさを増していますが、この状況を打開していくためには、私たち漁業者自身が自ら考えて、行動していくことが大事であり、今後は、指導漁業士として、地域内、地域を越えた漁業士の連携を図り、浜のリーダーとして先輩漁業士の方々の指導を頂きながら県内の若い漁業者の模範となるべく、努めていく所存です」と漁業士としての決意を語りました。

○青年漁業士（二名）

斉藤 裕 (JF宮城・鳴瀬支所)
高橋 征信 (JF宮城・松島支所)

○指導漁業士（十一名）

三浦 陽子 (JF宮城・志津川支所)
西條 寛 (JF宮城・北上町十三浜支所)
渡辺 浩之 (JF宮城・女川支所)
平塚 淳子 (JF宮城・石巻市東部支所)
斉藤 幸一 (JF宮城・石巻湾支所)
相沢 開 (JF宮城・石巻湾支所)
尾形 一彦 (JF宮城・宮戸支所)
武山 智紀 (JF宮城・塩釜市浦戸支所)
菊地 幹彦 (JF宮城・亘理支所)
岩佐 敏 (JF宮城・山元支所)
寺島 洋孝 (JF宮城・山元支所)



新たに認定された漁業士

漁業士研修等の報告

漁業士研修会

宮城県漁業士会事務局

平成二十年六月二十四日に開催された平成二十年度宮城県漁業士会通常総会後に、漁業士会研修会が開催されました。

研修は、「宮城県漁業協同組合の販売対策について」と題し、宮城県漁業協同組合経済事業担当理事の芳賀長恒氏から、県漁協の販売事業の現状や、今後の事業計画、部会制度を活用した販売事業の推進等について講演がありました。

三十一漁協が合併した新たな体制での販売事業の展開、今後の方向性、可能性について熱心な議論が行われました。



芳賀理事による講演

東北・北海道ブロック

漁業士研修会

宮城県漁業士会事務局

東北・北海道地区の漁業士の研鑽と相互連携を深めることを目的として、平成二十年七月八日に秋田市において開催されました。

研修会には、関係道県の漁業士及び担当者約四十名が参加しました。本県からは、四名が参加しました。

研修会では、「秋田の豊かな魚たち」と題して、秋田県農林水産技術センター水産振興センター杉山所長から、秋田県で漁獲される魚について、春夏秋冬の季節毎に、秋田県内各地方の「食」にまつわる行事等と絡めながら「食育」、「食文化」の視点から紹介されました。ハタハタの資源管理にも触れ、生態調査と資源調査を併せた成果を行政・漁業者が一体となり進めてきた経緯には、参加者が熱心に聞き入っていました。

また、大きな海難事故が毎年起きていることから、「海難防止について」と題して海上保安庁秋田海上保安部警備救難課堀内係長から講話がありました。秋田県内での海難事故の発生状況や、いわゆる「追い波」による船舶の航行への影響について解説があり、荒天時の安全運航について認識を新たにしました。

最後に各県における漁業士活動の事例報告があり、各県の漁業士会活動等の中で食育の取り組み、青森県、茨城県での、産直市場の実施や大手販売店との取引など活発な活動事例について報告がありました。



海難防止に係る講話

漁業士国内研修

宮城県漁業士会事務局

平成二十一年一月十七日から十八日にかけて漁業士国内研修(宮城県主催)が実施され、漁業士四名と漁業士会准会員二名が千葉県漁業士会との交流及び海の駅伊戸だibo工場の視察研修を行ってきました。

千葉県漁業士会との意見交換

千葉県漁業士会は、四支部制で、女性漁業士十二名を含む計七十名の漁業士が所属しています。漁業士会の活動としては、魚食普及活動や漁業現場における研修やインターンシップの受入等を行っています。



千葉県漁業士会との意見交換

都市部での漁業ということで、近隣住民との騒音、臭気には特に気をつけており、また、後継者、配偶者問題等も抱えています。サーフイン等で来た方がそのまま結婚して地元に残る例もあるということでした。

漁船漁業では、休漁日が漁業種ごとに決められており、漁場を均等に漁ができるよう話し合いの上、輪番制で漁を行い、余分な労力(漁場までの競争や場所取り等)を費やさないようにしているということでした。

漁業士としての意識についても意見交換を行い、漁業士としての(漁業現場での)地位・位置づけは低いと感じているものの、会の活動に参加することとていろいろ人の話し(県内外)を聞くことができ、また、子ども達への指導、浜への情報提供など様々な活動を経験できることは自分自身にとってプラスになること。さらにもう一つ上のランクを目指したいと思っているが、そのためには本人自らの努力が

もっと必要と感じていること等の意見が出されました。

ライフジャケットの着用や直販活動についても意見交換が行われ、最後に、千葉県勝浦支部では、海で元気に働けるのも奥さんが家を守っているからだ。奥さんに感謝しようという運動を進めており、船にステッカーを貼って感謝の気持ちとして伝わるようにしている事例が紹介されました。



奥さんへ感謝の思いを
込めたステッカー
各船へ貼っているとの
ことです

普段は照れてしまい、なかなか言葉にできないことですが、改めて感謝の気持ちを伝えるという重要性を認識しました。

海の駅伊戸だibo工房視察研修

千葉県漁業士会館山支部の内川指導漁業士から説明をして頂きました。

当地は、幹線道路の単なる通過地点で、めばしい観光施設や飲食場もなく、何とかしたいという思いがあったそうです。そんな時、県の観光補助金を活用して、体験施設を開設してはどうかという話しが持ち上がり、館山市の全面的なバックアップもあり、施設建設の話が進み、その後、飲食場を



海の駅伊戸だibo工房における視察研修

増設する等して現在に至ったそうです。目の前は太平洋の磯場が広がり、サザエ等を捕ったりしてはダメですが、磯遊びをするには格好の場所でした。また、組合自営の定置網(大某網だiboの由来)もあり、新鮮な魚が毎日手に入ることも重要とのことでした。

店は六十坪あり、五十三席の飲食ブースと直販ブースで構成されています。店での販売品は、定置網でとれた新鮮な魚の他に、「魚の開き」等の加工品(特に、魚醬を自分たちで作る、調味料として使っている魚の開きがセールポイント)自分たちでいかに付加価値を付けて売ることが大事)でした。このような中、観光客として来店した方がリピーターとして来店してくれているそうです。平日は客足が遠のきますが、休日は多い時で四百名位の来店があるそうです。職員は正規二名とパート職員でやりくりしているそうです。

話しを伺った上で、参加した漁業士からは、地元旅館等への販売や店の経

営状況、漁業士としての係わり等について熱心な質問が続きました。最後に、視察を快く受け入れて下さいました千葉県及び千葉県漁業士会の皆様に心より感謝申し上げます。



漁業士国内研修参加者(だいぼの前で)

東日本ブロック女性

漁業士交流会

宮城県漁業士会事務局

平成二十年八月二十三日から二十四日にかけて茨城県大洗町で、東日本ブロック女性漁業士交流会が開催されました。本年度から、青森県から千葉県までを網羅した形(女性漁業士がいない福島県を除く)の東日本ブロック女性漁業士交流会と名称を改め、五県から計四十名の参加がありました。本県からは、女性漁業士八名と漁業士会准会員二名の計十名が参加しました。交流会では、三つの分科会に分かれて意見交換を行いました。

【第一分科会】加工・直販】

今までこのテーマで話をする機会が

多かったですが、従前は加工場とか施設を作ることに話が終始していました。今回は一歩進んで販売方法に関して活発な議論がなされました。

【第二分科会】環境美化】

漁業サイドで、道路や漁港の環境整備・清掃を行います。ゴミのポイ捨て等漁業関係者以外の利用者のマナー遵守も重要であり、理解を求める必要があるとの意見が多く出されました。わかしお石けんの利用や廃海藻のたい肥化等の取組についても紹介がありました。

【第三分科会】浜のスタイル】

ファッションスタイルとしては、清潔感や機能性を重視した服装を選ぶ、ライフスタイルとしては、しかもつつ面して生活するのではなく、楽しく時には遊び心を持って仕事に取り組む心の余裕の重要性について意見交換が行われました。また、女性も同じように作業しているのだから、男性だけでなく女性にも優しい施設づくりをお願いしたいといった意見も出されました。



分科会での意見交換

【全体会】

各分科会での意見交換の概要が報告されるとともに、ライフジャケットの着用推進の動きについて意見交換が行われました。各県により着用についての意識に差がみられるものの、着用の重要性について相互認識を深めました。

翌日は、アクアワールド茨城県立大洗水族館の視察研修を行い、観光施設の運営や現状について話しを伺ってききました。

交流会を通じて、県内外を問わず活発な意見交換・交流が行われました。

なお、本交流会の参加にあたりましては、宮城県漁業協同組合から多大なる助成を頂いております。紙面をお借りして御礼申し上げます。



全体会での意見交換

一次産業交流会

宮城県漁業士会事務局

平成二十年七月十六日に一次産業交流会が開催されました。一次産業交流会は、農林漁業の担い手として互いの



農家民宿での交流会

産業について視察・交流を行い、相互理解を深めることを目的として、平成十二年から開催されてきました。

本年度は農業士会が幹事となり、加美町一円の農家、農家民宿等を会場に実施されました。

漁業士会からは、北部一名、中部六名、南部三名の計十名が参加し、農業士の圃場や産直施設の視察研修を行いました。

視察後には、農家民宿で持ち寄った農、水、林産品を使ってバーベキューを行い、「顔」の見える生産物のおいしさを味わうとともに、生産にあつての苦労話や自慢話に花が咲きました。

また、林業研究会からはチェンソーアートのデモンストレーションが行われました。デモンストレーションを行った高橋さんは、一迫地区在住で先の岩手宮城内陸地震で被災され、その復興を願って各地で実演しているとのことでした。栗原をはじめ被災地の日でも早い復興を改めて祈念いたします。



チェンソーアートのデモンストレーション

支部だより

南部支部

「みやぎ食材伝道士の学び舎」

指導漁業士 内海 信吉

(JF宮城塩釜市浦戸支所)

指導漁業士 後藤 晃

(JF宮城鳴瀬支所)

指導漁業士 尾形 一彦

(JF宮城宮戸支所)

指導漁業士 阿部 雄美

(矢本漁業協同組合)

「食材伝道士」は、料理人が生産者の指導のもと、種まきから収穫までの一

連の作業を実際に体験し、さらには、料理を提供する際に、作業実習により学んだ、地元食材のすばらしさや生産者の想いを消費者へ伝え、地産地消の意識の向上を図ることを目的として、宮城県仙台地方振興事務所が実施しているものです。

平成二十年度から、宮城県漁業士会南部支部も参加し、かき・養殖、のり養殖の生産工程や食材の利用に関する実習を行い、PR活動を兼ねた取り組みを推進しています。

取組内容

漁業士会南部支部から、四名の指導漁業士が参加し、かき・海苔養殖に関する実習を全七回にわたり行いました。料理人は、雨や波がある中、生産者と一緒に早朝から作業を行い、中には作業の疲れからか「体がふらふら」になりながらの実習となりました。「初心者にとってはかなりきつい仕事であり、改めて養殖業の大変さを感じました」との感想もありました。

料理人と生産者が作業を通じて交流することにより、養殖生産の苦労や大変さを感じてもらうとともに、生産者の想いを伝えることで、食材への関心を持つてもらい、活動の継続による地域食材の利用拡大を期待しています。次年度も「食材伝道士」の取組が行われることから、引き続き、取組に参画し、地産地消活動への取組を推進したいと考えています。

作業風景



「かき養殖」：かき原盤の垂下作業



「のり養殖」：のりの収穫作業

中部支部

マナマコ種苗生産の

先進事例を視察して

青年漁業士 細川 泰宏

(JF宮城石巻地区支所)

近年、中国での乾燥ナマコの需要増加によって日本産ナマコの価格が高騰しており、当中部地区でも盛んに漁獲が行われていますが、獲り過ぎによる資源の減少が心配されることから、一部の青年研究会では天然採苗など種苗生産への取り組みが開始されています。しかし、まだまだ分からない点が多いことから、先進県での取り組みを視察するため、中部支部会員三名を含む宮城県漁協石巻地区支所青年部、同石巻市東部支所漁業研究会の合計八名で、平成二十年九月十一日に青森市水産指導センター及び平内町漁業協同組合を訪問しました。

青森市水産指導センターは、市の水産指導施設として昭和四十年に設立され、ナマコ・ワカメの種苗生産のほか、ホタテガイの採苗調査や後継者育成事業にも取り組んでいます。

ここではナマコの人工種苗生産の取り組みを視察しました。一連の流れとしては、三月に採卵した幼生を屋外水槽で約一年間飼育し、約二センチメートルに成長した稚ナマコを投石増殖場に放流しており、放流から三、四年で漁獲サイズ(約十五センチメートル)に成長するそうです。

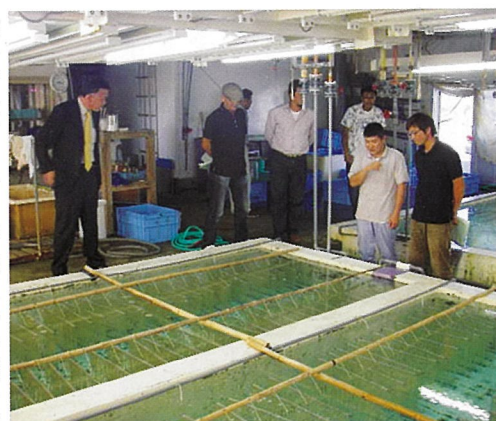
人工種苗生産の問題点としては、成長のばらつきが非常に大きいこと、外敵であるコペポダ（小型甲殻類）の駆除が難しいこと、施設の老朽化で目標数を生産するのが難しくなっている等の話がありました。

また、近年は漁獲の急増により資源の悪化が懸念されることから、種苗生産と併せて資源管理への取り組みも行っており、禁漁期間や網目制限などの県漁業調整規則で決められた規制の他、青森市独自で、十五センチメートル以下のナマコの漁獲を禁止するとともに、青森市内で一年間に漁獲する量を百七十トンと決めて資源管理を行っているとのこと。

次に、天然採苗の取り組みを視察するため、平内町漁業協同組合を訪れました。この漁協は、ホタテガイを取り扱う単協としては日本一の生産量を誇り、全漁連の前会長を務めた植村さんのお膝元でもあります。天然採苗の取り組みは清水川支所の青年部が三年前に開始したそうですが、これまでの試



青森市水産指導センターでの意見交換

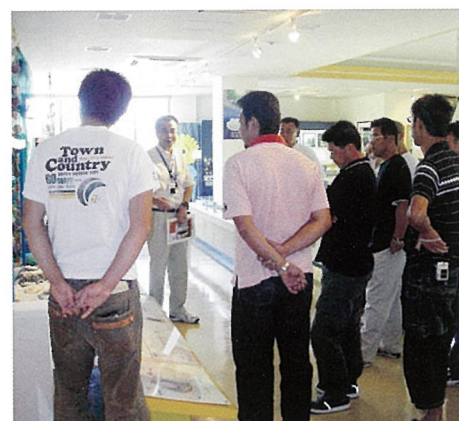


青森市水産指導センター種苗生産施設の見学

験の結果、タマネギ袋に杉の葉を詰めただけのものが最も良い結果が得られたそうです。ただし、杉の葉は近年入手が困難なため、代わりの着生基質を考える必要があることや、着生後の稚ナマコは低密度で管理する必要があるため、中間育成よりも禁漁区等への放流がより効果的と考えられるとの説明がありました。現在、天然採苗の取り組みは他の青年部や漁業者にも波及しており、将来的には資源の増加も期待しているそうです。

今回の視察研修は、種苗生産の技術だけでなく、資源の育成管理への取り組みの大切さを改めて認識する良い機会となりました。是非、学んだことを浜に還元し、地先資源の育成、管理に役立てていきたいと考えています。

最後に、視察を快く受け入れて下さいました青森市水産指導センター及び平内町漁協の皆様にご心より感謝申し上げます。



平内町漁協での意見交換

漁業士会からのお知らせ
海人では、会員の皆様からの投稿をお待ちしております。
内容は自由で、八百字以内にとめ、漁業士会事務局まで送付してください。

北部支部

指導漁業士になって

指導漁業士 三浦 陽子

(JF宮城志津川支所)

私は、この度、初めて漁業士（指導漁業士）に認定されました。

私の所では家族で、かき・わかめ・ほや養殖を行っております。その他、私は各種イベントや産直などの物産販売など行っております。

漁業士になって初めての活動とし

て、東日本女性漁業士交流会で茨城県の大洗に行ってきました。

そこでは青森、岩手、千葉、茨城県の女性漁業士の方達が来て各分科会に分かれ、私は「加工、直販分科会」に参加して皆さんと意見交換をしました。特に千葉県と茨城県の女性達の話聞いて大変勉強になり、自分がこれからやりたいと思っていることの参考になりました。全体会での意見交換でも、いろいろな人たちと話をしたり聞けたりしてとても良い経験になりました。

これからも研修や交流会などがありましたら是非参加をして、いろいろな人たちの話を聞いてみたいと思います。

まだまだ未熟者の私ですが、様々な人たちの意見を聞いて勉強し、参考にしていきたいと思っています。

これからは、漁業士活動にもできるだけ参加をして家の仕事も頑張りたいと思います。



初めて参加した東日本女性漁業士交流会
(一番左が三浦指導漁業士)

トビックス

○燃油高騰危機突破

全国漁民大会の開催

平成二十年七月十五日に東京都日比谷公園において、「漁業経営危機突破全国漁民大会」が開催されました。大会には、全国から三千人以上の漁業者が参加し、燃油価格の高騰に対する抜本的対策を求める決議を採択しました。本県からは漁業士を含め沿岸小型漁船漁業者を中心に二百名以上の漁業者の方々が参加し、本県漁業の窮状を強く訴えるとともに、猛暑の中霞ヶ関周辺をデモ行進しアピール活動を行いました。当日は気仙沼でも漁業者集会が開催され、約三百名が参加し、全国大会に併せて広くメッセージが発信されました（写真は宮城県漁業協同組合提供）。

また、大会開催と同時に、燃油高騰の窮状を訴えるべく、全国で二十万隻以上の漁船の一斉休漁も行われました。

燃油価格の高騰は、私たち漁業者にとっては、死活問題です。現在、燃油価格は落ち着きを見せていますが、価格高騰による経営への影響は続いています。また、世界的な経済情勢の変化が漁業経営に直接影響を与えるなど、新たな課題が発生する中、私たち漁業士は浜のリーダーとして地域を牽引する重要な役割を担っています。



宮城県水産会館

写真提供：宮城県漁業協同組合

○宮城県水産会館の完成

平成二十年三月に石巻市開成の石巻トゥモロービジネスタウン内に宮城県水産会館が完成し、宮城県漁業協同組合本所と石巻総合支所が移転されました。



全国漁民大会会場（日比谷公園野外音楽堂）



宮城県水産会館へのアクセス
石巻トゥモロービジネスタウン内
（住所：石巻市開成1-27）

会館の一階は信用共済部資金課と石巻総合支所、二階は宮城県漁業協同組合の総務、指導、経済事業の三部七課、三階は総務部二課、信用共済部の二課、経営管理委員会、監事室などがあります。

より浜に近い場所へ移転しましたので、漁業士会会員も足を運び、活発な漁業士会活動につながっていききたいと思っています。

○第一〇回青年・女性漁業者交流大会の開催

平成二十年八月二十二日に七ヶ浜町国際村において、第一〇回宮城県青年・女性漁業者交流大会が開催されました。青年団体、女性団体計六団体の活動実績が報告されました。

① 私達が大事に育てた伊達のぎん

JF宮城志津川支所戸倉女性部

後藤 眞紀子

② 主要養殖種の安定採苗へ向けて

JF宮城女川町支所出島寺間支部青年部

須田 勝浩

③ ノリ三期作の経済的な評価と今後の課題

ノリの品質と単価の

さらなる向上を目指して

矢本浅海漁業研究会

津田 晃樹

④ かきの里松島における女性部活動

加工品販売実現に向けた

取り組みについて

JF宮城松島支所女性部

蜂谷 ひで子

⑤ おいでよ、網地島へ！

活気ある島の復活を目指して

JF宮城網地島支所女性部

小野寺 たつえ

⑥ よってがいん！はまらいん！

世界に輝け！みどりの真珠

JF宮城気仙沼地区支所大島出張所

大島青年研究会

村上 広志



交流大会参加者（主催者と一緒に）

技術の向上や浜の活性化への各地区での取組など、いずれの発表もすばらしいものでしたが、審査の結果、矢本浅海漁業研究会及びJF宮城網地島支所女性部が平成二十一年三月に東京で開催される全国大会へ推薦されることとなりました。昨年度県代表として全国大会で発表したJF宮城雄勝東部支所女性部が水産庁長官賞、JF宮城松島支所青年部が農林中央金庫理事長賞を受賞していますので、今年も大いに活躍が期待されます。

○女性漁業士意見交換会の開催

平成二十年九月十一日に宮城県漁業協同組合会議室をお借りして、「宮城県女性漁業士意見交換会」を開催しました。今年度、新たに二名の女性漁業士が認定され、女性漁業士が准会員を含め十一名となったことから、今後の女性漁業士として活動方向などについて意見交換を行ったものです。

当日は、事務局、会長を含めて計十三名の参加があり、先に開催された東日本女性漁業士交流会の感想や、ライフジャケット着用推進の取組、産直販売や加工品の開発などの取組について活発な意見交換が行われました。女性ならではの視点から、さらなる活躍が期待されます。

○宮城県の普及組織の再編

(水産技術総合センター普及指導チームの新設)
平成二十年四月から宮城県の水産業普及指導体制が新しくなりました。従来、三地区の地方振興事務所に四

名(北部地区は南三陸町にさらに一名配置)配置されていた水産業普及指導の体制が再編され、三地区の地方振興事務所の普及指導員が三名となった一方で、水産技術総合センターにも計五名の普及指導員が配置されました。

さつそく、水産技術総合センター普及指導チームからは、漁業士会との連携を強めていきたい旨申し入れがあり、今年の総会時には、漁業士専用ホームページの案内、試験研究業務に関するアンケート調査の依頼がありました。漁業士会事業の一つでもある、漁業振興についての研究・助言・指導や、漁業後継者の育成指導について、特に技術的な側面から専門的なアドバイスを提供するとともに、漁業士会としても普及指導チームと連携した取組を模索していきたいと思っています。



力キ殻を利用したアサリ漁場造成技術指導

○漁業士会参加行事など

催事後援

- ・第一〇回宮城県青年・

女性漁業業者交流大会

- ・二〇〇九農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会

講師・助言者派遣

- ・マリANCHALLENGESCHOOL講師
気仙沼地区(小野寺芳浩青年漁業士)
石巻地区(伏見薫青年漁業士、横江昭指導漁業士、鈴木典子指導漁業士、渡邊浩之指導漁業士、豊嶋恵美子指導漁業士、西條寛指導漁業士、阿部泰正指導漁業士)

- ・水産青年フォーラム助言者(阿部長喜指導漁業士、尾形一彦指導漁業士、伏見薫青年漁業士、及川文博青年漁業士、渡辺正之青年漁業士)

- ・第一四回全国青年・女性漁業業者交流大会助言者(豊嶋恵美子指導漁業士、阿部源史青年漁業士)

- ・第一〇回宮城県青年・女性漁業業者交流大会審査員(小野寺会長)



マリANCHALLENGESCHOOL(中部地区)

来賓出席

- ・平成二十年宮城県漁協青年団体連絡協議会通常総会(伏見副会長)
- ・平成二十年宮城県漁協青年団体連絡協議会南部支部通常総会(内海顧問)

- ・平成二十一年度宮城県漁協青年団体連絡協議会中部支部通常総会(伏見副会長)

- ・水産青年フォーラム(小野寺会長)
- ・二〇〇九農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会(小野寺会長)

催事協力等

- ・第二五回「みやぎの海の子」作文募集
- ・漁船海難遺児育英年末募金

このほかにも各支部の事業として、各種行事への参加、講師派遣等を行っています。引き続き漁業士会行事へのご協力をお願いします。

○退任漁業士のお知らせ

平成十九年度で認定期間が終了し、退任されました方々は、次のとおりです。

青年漁業士

小山 知利さん(JF宮城唐桑支所)
梶原 浩之さん(JF宮城唐桑支所)
また、昨年度末に大江清明さん、鈴木強さん(JF宮城・女川支所)、阿部正春さん(JF宮城・石巻湾支所)が、今年度に入り佐藤賢一さん(JF宮城・仙台支所)が、事情により退任されました。これまでの漁業士としての活動に感謝申し上げます。

海人編集委員(敬称略)

編集委員長	伏見 薫
南部委員	阿部 雄美
中部委員	横江 昭
北部委員	小野寺 芳浩